

## 「食品残さ飼料化推進に向けた行動計画(平成18年度)」に基づく取組の概要について

| 行動計画の項目  | 取組内容の概要  |
|--|--|
| 広報活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エコフィードの推進運動</li> <li>・ エコフィードのPR・普及啓発</li> </ul>   | 農政局等における推進会議等の開催状況<br>全国(5/19)、北海道(5/26)、関東(5/30、10/25)、沖縄(6/21)、東海(7/5)、北陸(7/26)、近畿(8/9)、中国四国(8/24)、東北(9/7)<br>食品残さの飼料化(エコフィード)シンポジウムの開催状況<br>北陸地域シンポ(9/15:111名)、西日本シンポ(九州)(10/10:177名)、東日本シンポ(関東)(11/15:255名)、東海地域シンポ(11/21:162名)、近畿地域シンポ(11/27:75名)   |
| 関係者のネットワークづくり <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報の収集・提供</li> <li>・ 食品残さ供給者・利用者のネットワークづくり</li> <li>・ 拠点づくり</li> <li>・ 人づくり(アドバイザー育成研修)</li> </ul> | 農政局等を通じたエコフィード事業所の実態把握(別紙1)<br>(H17年度調査:134事業所 H18年度調査:141事業所)<br>利用実態及び排出実態調査の実施(別紙2、別紙3)<br>配合飼料製造工場における食品製造副産物等の利用実態及び養豚農家におけるエコフィード利用実態及び意向調査を実施。また、食品製造業者に対する副産物等の排出実態調査を実施中。<br>各地域における研究会等の開催状況<br>九州地区食品循環資源飼料化研究会(11/20:90名)、岡山地区食品循環資源飼料化研修会(11/28:82名)、千葉県養豚農家食品残さ利用推進研修会(12/12:75名)、沖縄地域食品残さ等飼料化推進セミナー(1/22:100名)<br>中央畜産技術研修会の開催<br>家畜改良センターにおいて研修会を実施(7/10~14:33名) |
| 安全性の確保 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エコフィードの安全性確保</li> </ul>  | 安全性確保ガイドライン作成にかかる委員会等の開催状況<br>第3回ガイドライン作成WG(ワーキンググループ)(5/16:日程調整及び素案検討)、第4回同WG(6/20:素案とりまとめ)、専門委員会(ガイドラインとりまとめ)(7/11)、ガイドラインQ&A作成WG(10/3)<br>安全性確保ガイドラインの制定(8月30日)(別紙4)<br>安全性確保ガイドライン及びQ&Aの普及(10月~)   |

| 行動計画の項目  | 取組内容の概要   |
|--|---|
| 推進に向けた環境整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エコフィードの推進を図るための認証制度の検討</li> <li>・ エコフィード栄養特性評価手法の開発</li> </ul> | <p><u>エコフィード推進のための事業に関する企画委員会の開催状況</u><br/>           エコフィード推進事業企画検討委員会(一般予算)(6/30)<br/>           リサイクル飼料利用促進対策事業検討委員会(JRA予算)(7/18)</p> <p><u>認証制度検討協議会の開催状況(別紙5)</u><br/>           第1回協議会(7/28:WGの設置及び日程の検討)、第1回WG(8/16:検討課題及び日程の検討)、第2回WG(9/27:目的の決定、対象範囲の検討)、第3回WG(11/8:対象範囲の決定及び認証基準等の検討)、第4回WG(12/18:概要合意)、第5回WG(1/22:要綱(案)取りまとめ)、第2回協議会(1/29:要綱(案)取りまとめ)</p> <p>要綱(案)では、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的:食品残さ等利用飼料などについて、一定の認証を与えることにより、その利用の促進を図り、もって飼料自給率の向上や資源の有効利用に寄与する。</li> <li>・ 対象範囲:安全性ガイドラインに規定する食品残さ等利用飼料と同一範囲とする。<br/>             ただし、既に成分及び利用方法が知られているものは審査等を軽減。</li> </ul> <p>今後は、具体的な実施機関を念頭に、畜産物への認証制度適用等を含め、細部を検討。</p> <p><u>栄養特性評価手法にかかる委員会の開催</u><br/>           専門委員会(7/28:サンプル調査方法及び調査項目の決定)<br/>           ・ 専門委員会の決定を受け、現在(社)科学飼料協会がサンプル調査中(～H19度)。</p> |